

〔団体の概要〕(N G O / N P O 用)

団 体 名	KSO		
所在地	〒860-0852 熊本県 熊本市 薬園町 12-7 TEL:096-344-0687 FAX:096-344-0687 E-mail:kso14001@yahoo.co.jp		
ホームページ	http://www.geocities.jp/kso14001/ (作成中)		
設立年月	2000 年 4 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日		
代表者	小阪 功	担当者	小阪 功
組 織	スタッフ 10 名 (内 専従 1 名)		事務所 あり
	会員制度 (なし)	正会員 名 (内訳: 個人 名 / 団体・法人 名) 賛助会員 名 (内訳: 個人 名 / 団体・法人 名) その他会員 名	
設立の経緯	2000 年 4 月 22 日 (アースデイ) の熊本市城見町通り商店街における環境イベントの企画、運営をきっかけに発足		
団体の目的	環境にやさしい地域づくりを目的とした、循環型社会システムの構築		
団体の活動 プロフィール	2000 年 4 月 商店街における環境イベントの企画・運営、KSO 発足 8 月 全国リサイクル商店街サミットでの KSO 構想の発表 9 月 熊本消費者グループ 2000 での活動報告 11 月 店主による商講演会の開催、 県下の大学生対象の環境セミナーを開催 12 月 神戸地球温暖化防止推進員交流会パネリストディスカッション 2001 年 9 月 日本青年会議所主催 TOYP 大賞及び環境大臣奨励賞受賞 10 月 「環境にやさしい街づくりってなんだろう」KSO イベント開催 2002 年 1 月 熊本市主催地球環境フォーラムパネリストディスカッション		
財 政	活動事業費 (平成 13 年度)	200,705 円	

団体・企業名	KS0	担当者名 小阪 功
--------	-----	--------------

〔政策提言の内容〕

* 政策分野・手段の番号は参考資料をもとにお書きください。

政策のテーマ	地域に根ざした独自の環境規格づくり		
政策の分野	番号		環境パートナーシップ
政策の手段	番号		環境教育・学習の推進
政策の目的			
1. <u>環境に配慮した地域</u> （商店街など）づくり 2. 21世紀を担う子どもたちへの <u>実践的な環境教育</u> づくり 3. 地域（店主など）と子どもの <u>触れ合い</u> による <u>顔の見える地域のコミュニティ</u> づくり			
提言を行うこととなった背景および現状の問題点			
近年、企業などの環境への取組みを促す仕組みとして ISO14000 シリーズの取得が盛んになっています。しかしその取得目的の誤りや厳格さゆえ、取組みの継続性が問題となっています。また生活者により近い立場にある地域の商店街やスーパー、中小企業などにおいては、取得時のコスト高や専属人員確保の難しさもさることながら、‘国際’規格を取ることが環境への取組をする動機付けにもなりにくく、具体的な取組みがなされていないのが現状です。 そこで、細く長く、楽しみながら継続的にできる、生活者により近い立場の「地域」独自の環境規格を提言しました。			
政策の概要			
KS0 の ‘K’ は Kumamoto の頭文字を取ったもので、熊本における地域版 ISO を意味します。つまり地域の中での環境規格をつくり、政策として活用しようというものです。しかし ISO 等の本格的な規格とは異なり、‘遊び’を取り入れたユニークなものとしています。 地域には、学校、公共施設、商店街、企業、農林水産業、役所など、そこに住む人をはじめ働く人や学ぶ人など、さまざまな人が地域の中で関わりを持って生活しています。我々は、最初の取組みとしてまず、商店街にスポットを当ててみました。そして商店街にあるお店の環境への取組みを審査する役目を担うのは、大人でなく、‘地元の子ども’たちです。つまり、そこで生まれ育っていく将来を担う子どもたちに、自分たちの街を環境という視点からチェックしてもらうということです。 そして、子どもたちのこの活動自体が、実践を踏まえた環境学習の場でもあり、お店や街の文化や歴史を学ぶ社会学習の場ともなります。商店街の店主たちも、子どもたちに励まされながら楽しく継続的に環境活動ができます。さらに店主と子どもたちの環境を切り口にしたこの触れ合いは、顔の見える地域のコミュニティづくりにも寄与すると考えられます。 またこのシステムは、地元の小学生が商店街をチェックするという主旨からも熊本だけでなく、他の地域でも、ISO として汎用性があると考えられます。			

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートをつけてください）	
商店街版 KS0 取得までの流れを整理すると以下ようになります。	
商店街での取組を決め KS0 事務局に申し込む。 小・中学校などに調査の依頼をする。 〔商店街は商店街版 KS0 の宣言式をし、年間を通して環境への取組を実践する。〕 子どもたちは、審査をする代償として商店街から学習の場を提供してもらう。 年度末等に子どもたちは商店街を周り取組を評価する。 発表会等を含め審査を KS0 事務局に報告する。 商店街を認定する。	<pre> graph TD KS0[KS0事務局 ・受付／認定 ・環境教育支援] Students[小・中学生 ・調査 ・調査報告] ShoppingStreet[商店街 ・環境活動 ・体験学習受け入] KS0 -- 申込み --> ShoppingStreet KS0 -- 調査依頼 --> Students Students -- 報告 --> KS0 KS0 -- 認定 --> ShoppingStreet ShoppingStreet -- 学習受け入れ --> Students Students -- 審査 --> ShoppingStreet ShoppingStreet -- 審査報告 --> KS0 </pre>
政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）	
● KS0 事務局および熊本大学のゼミの研究室の学生等 ● 地域の子ども会、公民館、小・中学校 ● 商店街、熊本青年会議所	
政策の実施により期待される効果	
< 環境問題の解決へ向けて > ・ 商店街の店主および子どもたちの環境意識および活動の向上 ・ 街中でもできる体験型環境学習の新たな構築、 < 地域の活性化へ向けて > ・ マスコミ等の活用による商店街の活性化 ・ 街やお店の文化など地域の良さを子どもたちが学ぶ ・ 顔が見え安心して暮らせる地域コミュニティの再生 ・ 小売業と地域市民との新たなパートナーシップづくり < その他 > ・ 学校週 5 日制に伴う休日の活用、総合的な学習の時間の活用	
パンフレット等添付資料名	
1．KS0 パンフレット（環境にやさしい地域づくり） 2．新聞記事（熊本日日新聞）	